

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 5 年 10 月 24 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200130		
法人名	株式会社 ひょうま		
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ・東原		
所在地	〒731-0112 広島県広島市安佐南区東原二丁目9番4号 (電話) ① (082) 850-0802 ② (082) 871-1285		
自己評価作成日	令和5年9月20日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3490200130-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和5年10月12日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>①職員が働きやすい職場の形成:職員定着率の向上の為(1年で離職者2人以内を目指す)職員に過度の負担をかけないシフト作りを行っている。/職員との定期的な面談を行っている。(職員の要望や不満等を上司に伝えやすい職場作りを目指している)</p> <p>②利用者様と家族、職員の笑顔が溢れるホームを目指している:職員と利用者様が一緒に毎月デイルームや廊下の飾りつけを作っている。/毎年7月に夏祭り、12月に家族会を兼ねたクリスマス会を行っている。(家族様も参加)コロナ禍の為今年も地域の方やご家族を招いての開催は出来なかった。/利用者様毎に担当者をつけ家族様との密な関係の構築に力を入れている。/職員が心に余裕を持ってケアを行える様に職場環境の改善に取り組んでいる。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>理念や基本方針について入社の時や毎月の会議で毎回管理者より話しをしている。管理者が職員の得意とすることを理解しそれを活かした委員を担当して貰い、職員が働きやすいように考え相談にも対応している。3食手作りで提供している。管理者が日々の食材を安く購入し、残った食材費でおやつを材料を購入している。施設内の畑で季節の野菜を作り、おやつに使用している。コロナ禍の中でも色々行事を考え、毎月行っている。看取りに関しては、利用開始前に家族に事業所で出来ること、出来ないことの説明をして納得を得て利用して頂いている。職員の笑顔が心のゆとりにつながると考え、人員配置や有休についても取得しやすい環境を整えている。</p>

自己評価	外部評価	項目(東原①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	基本理念5カ条。基本方針に基づいたケアの実践に努めている。利用者のご家族、職員の笑顔が溢れるホームの実現にむけて心に余裕のあるケアの実践を目指している。心に余裕のあるケアの為に職員の知識向上とストレスを溜めない為の定期的な面談や無理のないシフト作りを行っている。	施設の理念とグループホーム東原の基本方針を掲げ玄関に貼っている。利用開始前には家族にも理念について説明をしている。基本方針については毎月の会議でカンファレンスも含め、職員と話している。職員個々の目標は、個人面談をし、確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	7・9月と4年ぶりに対面の運営推進会議を開催。地域包括支援センター職員や民生委員の方と意見交換ができた。令和3・4年と東野小学校2年生の職場体験実習に参加。コロナ禍の影響で児童が施設内での授業はできず、管理者が質問等にインタビュー形式で応える形で実施。今年の11月は施設内で対面の実習を予定している。コロナ禍で協力して貰える会社が無い中、当事業所の協力で感謝の言葉を頂いている。来年以降も続けていきたい。	小学校の行事である職場見学がコロナ禍の為、何処も受け入れて貰えないという学校の先生から話を聞いて、職場体験実習を今まで2回実施している。町内会にも入っていて、回覧板で行事にも参加し、清掃活動には職員が参加している。散歩をしている時に近所の方に声をかけて頂いたり、花を頂くこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	毎年7月に開催していた「ひなたぼっこ東原夏祭り」を4年ぶりに実施。コロナの影響がまだ残っている為地域の方を招いての実施は見送ったが、来年は地域の方を招く形で実施予定。毎年地域の町内清掃に地域の方と一緒に参加。今年も職員が参加し感謝の言葉を頂いた。コロナ禍で地域との交流が少なくなっており今後はコロナ以前よりも積極的に地域に貢献していきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍の中で文章照会方式での実施が続いていたが、7月に4年ぶりに施設内で対面で実施出来た。コロナウイルスがもたらした職員や利用者様、ご家族への影響について詳しく説明し、参加者の方に理解して頂けた。今後は現在の施設の状況だけでなく将来に向けての取り組みを伝えていきたい。	民生委員、地域包括支援センターの参加はある。コロナ禍の中施設内の様子、職員の状態が見えないという意見が出たので、ブログで様子を見てもらい状況の説明をしている。面会に来た家族にも、施設の様子や、職員のストレスについての説明をして理解を得ている。	民生委員と地域包括支援センター職員が参加しているが、家族の参加がない。又、議事録も家族に発送されていない。今後は、家族の方や地域の方等、多くの方に参加して頂き、会議で報告されている内容を参加されていない方にも発送することを期待します。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議等にも市職員の方になるべく参加していただけるよう促すようにしているがまだ参加して頂けていない。生活保護課の担当者との連絡、報告については随時実施している。	月1回は地域包括支援センターに行っている。多職種連携会議、ケアカンファレンス推進協議会に管理者が参加し、その後内容を職員に伝えている。管理者が他の事業所、病院等にパンフレットを持ってブログも使用しながら施設の説明をしている。	

自己評価	外部評価	項目(東原①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>内部研修の実施及び参加。また毎月の会議内でのカンファレンスの中で身体拘束をしない為の意見交換を行っている。全スタッフで検討し、代替介護がない場合のみご家族に説明し実施している。実施状況については、そのつど記録し、本人への身体、精神的影響について留意している。昨年～今年身体拘束実施無。</p>	<p>内部研修を毎月会議の中で行っている。職員が内容を決めて講師を務め補足を管理者が行っている。3ヶ月に1回身体拘束委員会を行っている。個々の事案については、職員と話して決めている。</p>	<p>会議でヒヤリハットや事故の報告をしているが、事故が減るとヒヤリハットが減るとい現状がある。今後は意識を変えてヒヤリハットを継続しつつ事故も減るといった意識を維持できるよう期待します。</p>
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>年に1回、内部研修を実施。月に1回、職員会議にて入居者の方々のケアについて話し合い、虐待・不適切なケアの早期発見に努めている。コロナ初年度におきた職員による不適切なケア(言葉)を教訓に職員との面談は随時継続している。</p>	/	
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>内部研修を実施し職員の権利擁護についての理解は昨年より進んでいる。研修だけではなく管理者による個別の資料配布を実施している。</p>	/	
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時はホーム長よりご家族に対し十分な時間をとって詳しく説明を行い、理解・納得して頂いたうえでサイン・押印して頂いている。しかしコロナ禍の中で以前より短時間での契約が求められる為、事前にご家族に契約事項について電話にて説明を行っている。</p>	/	
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>年に1度家族アンケートを会社全体で実施しており、その結果についてはグループ会にて職員にも周知している。入居者様それぞれに担当者を配置しており、密に連絡を取り合う事で意見を収集しやすい環境を整えている。利用者様から要望があればその都度ご家族と話し合いながら出来る限り叶えてさしあげるよう支援している。</p>	<p>家族より面会についての意見が多くあり、家族全員に電話をして面会ができない理由を説明し対応している。面会になかなか来れないので、定期的に連絡が欲しいとの意見も管理者が毎月定期的に連絡を入れている利用者もいる。面会に来られた家族ともその都度話をして要望を聞くようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(東原①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回グループ会で各委員会からの業務経過報告、業務改善提案等の意見を聞いている。その意見を精査し、改善に向けて検討、ホームにて判断ができない場合は運営者に報告し判断を得ている。早期に改善すべき事項については出勤している職員で話し合い連絡ノートに記載。全職員に周知している。	職員より日々の業務で常に意見が出ている。ケアについては、ある利用者が使用しているパッドについて意見が出た時、排泄委員と話をし連絡ノートに結果を記載し全職員に周知している。買い物についての意見や行事に使う材料について、職員との人間関係等、一つひとつ管理者が対応し改善に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	必要に応じて面談にて職員個々の意見を聞く機会を設けている。職員の資格取得を支援している。会社の貸付制度を利用し昨年は職員2名、今年は職員1名が介護福祉士に合格している。職員に過度な負担を掛けない適切なシフト作りを行っている。昨年に引き続き有給取得率は前年よりも上がっている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎月の職員会議の中で内部研修を実施、外部研修への積極的な参加を促している(現在自粛)。日々のケアの中で不足している技能や利用者への関わり方に改善すべき点があった場合は管理者が当日の内に指摘している。年2回の管理者との面談で職員の「良いところ」を必ず伝えモチベーションの向上にも努めている。一年間の退職者は1名となっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナ禍の中で文章照会方式での実施が続いていた運営推進会議を対面で実施。地域包括センターが実施している多職種連携会議(WEB)にも初めて参加。今後も積極的に参加予定。感染区分が5類になり他事業所(特養とショートステイ)の施設見学をホーム長が実施し意見交換をしている。		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に本人・家族と面談し、ホームでの生活に対する要望、想い、生活暦等を聴取しホームではどのような対応ができるか、また利用者本位の生活ができるよう事前に話し合いをしている。また担当ケアマネや入院先の相談員等からも詳しく情報を収集している。		
----	--	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項目(東原①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	利用前の面談時点でご家族の要望、希望を細かく聞き取りをしている。同時に当ホームで出来る事、出来ない事を了承を得られるまで繰り返し伝えている。契約時にも再度聞き取り、説明を行い信頼関係の構築に努めている。入居翌日には必ず入居後の様子をご家族に連絡している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前にその方の生活歴、ADL、精神的な状態をご家族や担当ケアマネ等からの情報提供により把握に努め入居時の対応を職員と情報共有している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員は利用者様を「認知症の人」と思わず「認知症という病気を患ってる尊厳ある1人の人間」と理解し一緒にホームで生活出来るようケアにあたっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	利用者様の要望、希望に耳を傾け都度家族へ報告、相談をしてケアをしている。ご家族へ連絡して欲しい旨があれば事前にご家族の了承を得た上で電話で話しをして頂いたり、希望があれば携帯電話を持って頂いている。利用者様の状態に変化があった場合は担当や管理者よりご家族に報告、相談の上ケアを行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族から生活歴を詳細に聴取しケアに活かすように努めているが家族も把握が十分でなく不明なことが多い。生活歴を重視した介護は困難なことが多いため共に生活しながら本人から聞き取り、ケアに活かすよう努めている。コロナ禍前は家族と相談し可能な限り定期的に外泊や外出、墓参り等馴染みのある場所へ行っていた。今後はコロナウィルスの感染状況によって検討する。	コロナ禍前は、正月など希望があれば家に帰って頂いたり、地域の夏まつりにも参加していた。散歩の時には近所の方と積極的に挨拶をしたり、家族より電話があると利用者や交代し話して頂いている。ある利用者は特別養護老人ホームにいる兄弟とラインで繋ぎ話を定期的にしている。手紙の書ける方は本人に書いて頂いている。	

自己評価	外部評価	項目(東原①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	認知度の違いや性格の不一致等により入居者同士の行動・心理状態に相違があるため衝突は未然に防ぐよう各担当者が本人の不満・要望を聴取、ケアの工夫等で早急に対処している。解決困難な場合は管理者に相談、職員が調整役となり支援している。気の合う利用者同士の外出や食事時の席等の環境を考慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他事業所に移られた場合「介護添書」を手渡し、情報交換も行い、馴染みの職員が機会を作って訪問している。退居後の相談について家族と何度も話し合いを行い家族が納得出来るよう支援に努めている。病院に入院し退居された利用者職員が面会に行った際、いつもより生き生きとした姿を見た家族から感謝の電話を頂いた。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前の面談にて利用者様本人、ご家族の希望や意向をお聞きし、できる限り本人本位の生活が送れるように努めている。日々の関わりの中で信頼関係を深め誰にでも気軽に話せる環境作りを行っている。入居者より訴えがあった場合は傾聴し職員全員で情報を共有しケアに活かしている。	意見が出しにくい利用者については、個々の担当職員がよく話し掛けるようにし、表情を見て思いを受け止めている。家族には、看取りをしていないため、利用開始前に別の事業所に移る場合延命するかどうか、どういった生活をして欲しいのか意見を聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	他施設からの入居は「情報提供書」等である程度の生活歴が把握可能。独居生活の方については家族も生活状況の把握ができていないことが多いため、小さな事柄でも情報を伝えてもらい、それらを蓄積しながら本人の全体像を把握していくよう努めている。入居後もご本人との会話の中から生活歴を把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	利用者様毎に担当職員を決めその担当者を中心に日々の動きを観察し、状態の変化等があった場合は確実な個人記録の記入と日々の申し送り。申し送りノートの活用等を通じて職員間での情報を共有しケアにあたっている。		

自己評価	外部評価	項目(東原①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人、家族の「思い」を加味しながら、本人の日常生活が途切れることのないように留意し策定している。介護記録等をもとに毎月のモニタリング、アセスメント等について担当者を中心にグループ会にて職員間で意見交換し担当者により基本的なケアプランを策定している。その後計画作成担当者と相談し最終的なケアプランを作成している。</p>	<p>個々の担当者を中心に管理者も計画を作成している。利用者によっては、往診の時にかかりつけ医にも意見を聞いて最終的に計画作成担当者が介護計画を作成している。3ヶ月ごとでは、状態の変化が見られない為、1年ぐらいで計画の見直しをしている。アセスメントとモニタリングをしたうえで会議で全職員に確認している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>「介護個人記録」「食事バイタル表」「状況チェック表」へ記録し、いつでも全職員が確認できるようにしており、就業前の確認を義務付けている。著しい状態の変化のある場合は、記録をもとに介護計画書の早期見直し、変更を行なっている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>本人、家族の状況に応じて、通院等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努力している。本人の本音を聞きだせるよう夜間帯等、個別で話ができるように努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>必要に応じて運営推進会議メンバーの方々(地域包括・民生委員)に相談等し協力を得ている。今年もコロナウィルスの影響により管理者による地域への営業活動や行事の参加は自粛していたが今後は積極的に参加していきたい。東野小学校2年生の職場体験授業は来年以降も継続していきたい。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入居時、「かかりつけ医」について説明、家族様に承諾(書面)を得て決定している。現在月に2度の往診により定期的な体調管理を行っている。「かかりつけ医」は内科、精神科、皮膚科があり利用者様の状態により往診を受けている。他科受診を要する場合は、本人・家族に同意をいただき受診している。</p>	<p>かかりつけ医が訪問診療専門で、いろんな検査を定期的に行う事もでき、緊急搬送先も探してくれるメリットがある。利用開始時に家族に説明し、移行して貰っている。他科受診は管理者が対応している。歯科受診も連絡をすれば病院の休憩時間に往診に来て貰える体制がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目(東原①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	月に2度訪問看護を利用し主治医と共に医療の連携を取っている。利用者様の状態についてはその都度報告し主治医の指示により訪問看護による点滴や傷の処置を実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	「介護添書」により情報提供し、週に1回は、入院先に連絡を入れ状態の把握に努め、速やかな退院支援を実施している。緊急の入院時速やかに介護添書を提出する為毎月添書の内容を更新している。ホームを退居となる場合はその後の行き先を含め事前に本人、ご家族、病院と面談し話し合っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化については契約時ホームでの生活における限界について、基本的に体制や条件が整わなければ看取りを行うのは難しい事を家族に説明し了承を得ているが、機を見て繰り返し説明を行いトラブルの無いよう支援している。また退居になる場合は次の行き先をご家族と相談しながら責任を持って一緒にお探している。	看取りは行っていないことを利用開始前に家族に説明している。目安として食事が摂取出来るか出来ないかで判断し、内科の医師よりその都度家族に説明し、支援している。退所する場合も家族に希望を聞いて、医師に看取りの実績のある施設を紹介してもらっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	「急変時」「事故発生時」の対応については、マニュアルを作成している。勉強会にて「事故発生時」の対処については学習を組み入れている。急変時対応、応急処置等のファイルを作成し職員が閲覧できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回程度消防署の協力を得て「避難訓練」を実施している。消防の方立ち合いの消防訓練は9月に予定していたが、先方の都合により延期となり11月に実施予定となる。会議の中で災害対策について防災年間計画を立て毎月計画に基づいて勉強会を実施している。協力体制は運営推進会議等でお願している。災害時の避難場所がわかるよう台帳を作成し職員が周知できるようにしている。	数年前に、近くの小学校へ全員避難した経験があり、その時の経験をもとに、毎年勉強会で話し合っている。協力体制として本社より物資が届くようになっていく。足りない場合は他の同法人の施設より持って来る体制となっている。年2回とも夜間想定の利用者参加で避難訓練を行っている。	

自己評価	外部評価	項目(東原①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	年長者として敬意を払い、何事も本人の気持ちを大切に考えケアに従事している。入居者方々の情報についても守秘義務について理解し、管理には注意をしている。トイレ介助や居室での更衣介助、入浴の際は必ずドアを閉め、カーテンを必ず閉めてプライバシーに配慮している。	人格の尊重とプライバシーに関する研修は職員が主体となって、年1回行っている。利用者と呼ぶ時は、基本名字だが、下の名前と呼ぶ時は、家族の了解を得ている。不適切ケアに気づいたらその時に管理者が注意をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	業務優先ではなく、入居者本位のケアに取り組んでいる。入居者個々が、自分の思いや希望を表出できるようにそれぞれ担当者を配置、個別でコミュニケーションをとるよう努力している。行事ではどこに行きたいか、なにが食べたいか等、意見を募りなるべく希望にそえるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員の業務優先ではなく利用者様の希望や要望に寄り添えるケアを心掛けている。毎月の職員会議で各利用者様のカンファレンスを必ず行い利用者様らしい生活を送って頂けるようケアの統一を図っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自分でできる方は服装等自分で選択されているが、判断ができない方については職員が準備している。自分で朝の整容が出来る方にはして頂き出来ない方には職員がお手伝いしている。理美容については、訪問美容をお願いしている(希望できる)。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	自分でできる方にはお手伝い(テーブル拭き・食器洗い・食事作り)をお願いしている。食事は職員が作って提供している。野菜等は旬の物をなるべく多く使う様にしており季節を感じて頂ける様工夫している。ホームの庭で野菜栽培を行っており今年はさつまいぶを収穫予定している。	毎食手作りで提供している。利用者の意見を聞きながら、冷蔵庫にある材料を確認して献立を決めている。利用者も出来ることを手伝っている。食事は職員も一緒に同じメニューを食べている。何時でも利用者の希望に応じて作れるようにいつも冷蔵庫の中は食材を沢山揃えている。	

自己評価	外部評価	項目(東原①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	「状況チェック表」に基づき入居者個々 の食事・水分摂取量について把握して いる。また、食事摂取の状態によってはキ ザミ食や水分にトロミを付ける等食事形 態を工夫している。摂取困難時は、その 方の好む食品等にて対応し摂取量の確保 に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後実施している。入居者個々の状態 に応じて介護用品(スパンクロス・口腔 内スポンジ)を使用にて清拭している。 できる方には声掛け・見守りで対応して いるが、それだけでは不十分なため職員 はできない部分をお手伝いしている。異 常時は管理者に報告、必要ならば歯科医 に往診を依頼している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	排泄委員を設け、各入居者の排泄チェッ クを実施している。問題や見直しがある 場合は、グループ会にて(月1回)検討 会議を実施している。	個々の担当者がチェック表に記入し、排 泄委員会が中心となり個別の対応を行っ ている。変更などがあつた際には、その 都度アセスメントを行い、対応の見直し を毎月の検討会議にて行っている。排便 に関しては、医師と連携を行い対応して いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事量、水分量、排泄動作の低下等のア セスメントを行い月に2回の定期往診時 に主治医に報告、相談を行い便秘が酷い 場合は薬の処方など各個人に応じた対処 をしている。排泄ケア実施時、羞恥心・ プライバシーの保持には十分配慮して いる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をして いる。	個々の要望に沿った入浴は現状困難であ るが週に2回は入浴していただいている 。入浴ができない場合は部分清拭、ド ライシャンプー、足浴等にて対応して いる。希望された場合は、その日の状況に よりできる限りの対応を努力している。 ADLが低下した利用者様については職員 が2人介助で対応し事故の防止に努めて いる。	週に2回の入浴が基本だが、利用者の状 況によっては、その都度シャワー浴等 を行っている。入浴を嫌がる方に対し ては、職員を変えたり声かけを変えて対応 している。皮膚の弱い方はシャンプーを 持参したり、冬前には医師と相談のうえ 入浴後の保湿クリームを処方して貰って いる。	

自己評価	外部評価	項目(東原①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々が自分の好きな時間に休まれている。ただし昼夜逆転にならない様に適度な声掛けは行っている。入眠ができない方には、温かい飲み物や軽食または職員が話し相手となり対応している。生活リズムを普通に維持できるよう、日中はアクティビティを提供し心地よい身体疲労を目標としている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	朝昼夕担当者を決め管理し、誤薬等の事故がないよう「服薬マニュアル」を作成、その内容に従い与薬介助し事故防止に努めている。服薬のセットの間違ひによるヒヤリハット、事故が増加した為ルールを変更。定期薬、臨時薬については個別綴り表に処方箋を入れ、担当者を含め他職員が常時閲覧できるよう保管している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	入居者個々の「できること」、また「してみたいこと」を見出し、介護計画に組み入れている(個別ケア)。午後からのレクリエーションや手作業等の種類を増やしている。また、職員も一緒に楽しみながら笑顔のたえない環境作りに努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	行事については「行事委員」が担当し、計画・実施している。コロナウイルスの影響で外出の行事はほぼ実施出来なかったが今年4月に竜王公園にお花見に行き利用者様の笑顔が多く見られた。散歩やドライブ等の頻度も多くなっている。秋から冬にかけて外出の頻度をあげていく予定にしている。	管理者が月1~2回は、何人かに分かれてドライブに出かけている。散歩は毎日1ヶ月かけて全員が出かけられるように支援している。コロナ禍前は弁当を作って梅林公園までドライブに行っていた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	各入居者のIADL(日常生活動作)を把握したうえで可能な方にはホーム内でのリスク(紛失等)を家族様に伝え理解していただき管理させていただいている。外食時等、レジにて支払い等ができる方には行動していただきたいが、現状職員が対応している。		

自己評価	外部評価	項目(東原①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人希望時電話の使用可。個々の居室があるためプライバシーの確保はできている。利用者様の希望で携帯電話を持っている方が居られる。手紙等の代読はお手伝いさせていただいている。自立の方は本人が希望されれば近所のポストまで職員と一緒に行き投函して頂いている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自分の居室と認識して頂く為に表札を出している。入居者の動線を考慮し、必要な所には必要な道具・家具を設置している。状態の変化がある場合は職員会議で話し合い家具や移動等環境整備に努めている。季節感を感じられるよう、季節の草花、手作り作品を置くよう心がけている。トイレ等の共有場所の衛生保持には特に注意している。	掃除は毎日利用者も出来ることを職員と一緒にに行っている。利用者と一緒に作成した季節が感じられる壁面の絵等は利用者の顔写真を貼り工夫も見られる。利用者と一緒に作成したものをリビングに飾るように心がけている。家具の配置もみんなで話し合っ決めて決めている。リビングには空気清浄機を設置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	娯楽室としてテレビ、ソファの設置、ゲーム等のレクリエーションのできる空間を設けている。1人になりたい方は、居室に入られる。ただし引き籠りにならない様適度な声掛けを行っている。利用者様同士のトラブルになりそうな時は職員がすぐに間に入りダイルールの離れたところに案内している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時、自宅で使用されていた馴染みの家具・道具を持ち込んでいただくようお願いし、環境変化を最小限にするよう工夫している。また、家具・道具などの設置もなるべく自宅と変わらないように工夫している。ご家族の写真等の思い出の品も飾っている。ヒヤリハットを活用し居室の環境整備に努めている。	ベッド、エアコン、カーテン洋服掛けのみ備え付けている。タンス、布団、テレビ等は使い慣れたものを持参して貰っている。家具の配置については家族や本人の意見も聞き、本人の状態によっては転倒等の危険性を説明し納得を頂きながら配置を決めている。居室の掃除は早出の職員が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	「できること」を見出し、それを活かす支援をしている。ヒヤリハットの活用により転倒リスクが高くなっている等事故防止の為に居室やパブリックスペースの環境整備を行っている。(ベット配置・手すり位置・補助具検討・動線整備・機の配置等)		

V アウトカム項目(東原①) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き生きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(東原②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	基本理念5カ条。基本方針に基づいたケアの実践に努めている。利用者ご家族、職員の笑顔が溢れるホームの実現にむけて心に余裕のあるケアの実践を目指してする。心に余裕のあるケアの為に職員の知識向上とストレスを溜めない為の定期的な面談や無理のないシフト作りを行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	7・9月と4年ぶりに対面の運営推進会議を開催。地域包括支援センター職員や民生委員の方と意見交換ができた。令和3・4年と東野小学校2年生の職場体験実習に参加。コロナ禍の影響で児童が施設内での授業はできず、管理者が質問等にインタビュー形式で応える形で実施。今年の11月は施設内で対面の実習を予定している。コロナ禍で協力して貰える会社が無い中、当事業所の協力を感謝の言葉を頂けている。来年以降も続けていきたい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	毎年7月に開催していた「ひなたぼっこ東原夏祭り」を4年ぶりに実施。コロナの影響がまだ残っている為地域の方を招いての実施は見送ったが、来年は地域の方を招く形で実施予定。毎年地域の町内清掃に地域の方と一緒に参加。今年も職員が参加し感謝の言葉を頂いた。コロナ禍で地域との交流が少なくなっており今後はコロナ以前よりも積極的に地域に貢献していきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍の中で文章照会方式での実施が続いていたが、7月に4年ぶりに施設内で対面で実施出来た。コロナウイルスがもたらした職員や利用者様、ご家族への影響について詳しく説明。参加者の方に理解して頂けた。今後は現在の施設の状況だけでなく将来に向けての取組みを伝えていく。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議等にも市職員の方なるべく参加していただけるよう促すようにしているがまだ参加して頂けていない。生活保護課の担当者との連絡、報告については随時実施している。		

自己評価	外部評価	項目(東原②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	内部研修の実施及び参加。毎月の会議内でカンファレンスの中で身体拘束をしない為の意見交換を行なっている。全スタッフにて検討を行い、代替介護がない場合のみご家族に説明し実施している。実施状況についてはそのつど記録し、本人への身体、精神的影響について留意している。昨年～今年身体拘束実施無。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	年に1回、内部研修を実施。月に1回、職員会議にて入居者の方々のケアについて話し合い、虐待・不適切なケアの早期発見に努めている。コロナ初年度におきた職員による言葉の虐待行為を教訓に職員との面談は随時継続している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	内部研修を実施し職員の権利擁護についての理解は昨年より進んでいる。研修だけではなく管理者による個別の資料配布を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時はホーム長よりご家族に対し十分な時間をとって詳しく説明を行い、理解・納得して頂いたうえでサイン・押印して頂いている。しかしコロナ禍の中で以前より短時間で契約が求められる為、事前にご家族に契約事項について電話にて説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	年に1度家族アンケートを会社全体で実施しており、その結果については会議にて職員にも周知している。入居者それぞれに担当者を配置しており、密に連絡を取り合う事で意見を収集しやすい環境を整えている。利用者から要望があればその都度ご家族と話し合いながら出来る限り叶えてさしあげるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目(東原②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回グループ会で各委員会からの業務経過報告、業務改善提案等の意見を聞いている。その意見を精査し、改善に向けて検討、ホームにて判断ができない場合は運営者に報告し判断を得ている。早期に改善すべき事項については出勤している職員で話し合い連絡ノートに記載。全職員に周知している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	必要に応じて面談にて職員個々の意見を聞く機会を設けている。職員の資格取得を支援している。会社の貸付制度を利用し昨年は職員2名、今年は職員1名が介護福祉士に合格している。職員に過度な負担を掛けない適切なシフト作りを行っている。昨年に引き続き有給取得率は前年よりも上がっている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎月職員会議の中で内部研修を実施している。外部研修への積極的な参加を促している(現在自粛)。日々のケアの中で不足している技能や利用者への関わり方に改善すべき点があった場合は管理者が当日の内に指摘している。年2回の管理者との面談で職員の「良いところ」を必ず伝えモチベーションの向上にも努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナ禍の中で文章照会方式での実施が続いていた運営推進会議を対面で開催。地域包括センターが実施している多職種連携会議(WEB)にも初めて参加。今後も積極的に参加予定。感染区分が5類になり他事業所(特養とショートステイ)の施設見学をホーム長が実施し意見交換をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に本人・家族と面談し、ホームでの生活に対する要望、想い、生活歴等を聴取しホームではどのような対応ができるか、また利用者本位の生活ができるよう事前に話し合いをしている。また担当ケアマネや入院先の相談員等からも詳しく情報を収集している。		

自己評価	外部評価	項目(東原②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	利用前の面談時点でご家族の要望、希望を細かく聞き取りをしている。同時に当ホームで出来る事、出来ない事を了承を得られるまで繰り返し伝えている。契約時にも再度聞き取り、説明を行い信頼関係の構築に努めている。入居翌日には必ず入居後の様子をご家族に連絡している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前にその方の生活歴、ADL、精神的な状態をご家族や担当ケアマネ等からの情報提供により把握に努め入居時の対応を職員と情報共有している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員は利用者様を「認知症の人」と思わず「認知症という病気を患ってる尊厳ある1人の人間」と理解し一緒にホームで生活出来るようケアにあたっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	利用者様の要望、希望に耳を傾け都度家族へ報告、相談をしてケアをしている。ご家族へ連絡して欲しい旨があれば事前にご家族の了承を得た上で電話で話しをして頂いたり、希望があれば携帯電話を持って頂いている。利用者様の状態に変化があった場合は担当や管理者よりご家族に報告、相談の上ケアを行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族から生活歴を詳細に聴取しケアに生かすように努めているが家族も把握が十分でなく不明なことが多い。生活歴を重視した介護は困難なことが多いため共に生活しながら本人から聞き取り、ケアに生かすよう努めている。コロナ禍前は家族と相談し可能な限り定期的に外泊や外出、墓参り等馴染みのある場所へ行っていた。今後にはコロナウィルスの感染状況によって検討する。		

自己評価	外部評価	項目(東原②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	認知度の違いや性格の不一致等により入居者同士の行動・心理状態に相違があるため衝突は未然に防ぐよう各担当者が本人の不満・要望を聴取、ケアの工夫等で早急に対処している。解決困難な場合は管理者に相談、職員が調整役となり支援している。気の合う利用者同士の外出や食事時の席等の環境を考慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他事業所に移られた場合「介護添書」を手渡し、情報交換も行い、馴染みの職員が機会を作って訪問している。退居後の相談について家族と何度も話し合いを行い家族が納得出来るよう支援に努めている。病院に入院し退居れた利用者に職員が面会に行った際、いつもより生き生きとした姿を見た家族から感謝の電話を頂いた。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前の面談にて利用者様本人、ご家族の希望や意向をお聞きし、できる限り本人本位の生活が送れるように努めている。日々の関わりの中で信頼関係を深め誰にでも気軽に話せる環境作りを行っている。入居者より訴えがあった場合は傾聴し職員全員で情報を共有しケアに活かしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	他施設からの入居は「情報提供書」等である程度生活歴が把握可能。独居生活の方については家族も生活状況の把握ができていないことが多いため、小さな事柄でも情報を伝えてもらい、それらを蓄積しながら本人の全体像を把握していくよう努めている。入居後もご本人との会話の中から生活歴を把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	利用者様毎に担当職員を決めその担当者を中心に日々の動きを観察し、状態の変化等があった場合は確実な個人記録の記入と日々の申し送り。申し送りノートの活用等を通じて職員間での情報を共有しケアにあたっている。		

自己評価	外部評価	項目(東原②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人、家族の「思い」を加味しながら、本人の日常生活が途切れることのないように留意し策定している。介護記録等をもとに毎月のモニタリング、アセスメント等について担当者を中心にグループ会にて職員間で意見交換し担当者により基本的なケアプランを策定。その後計画作成担当者と相談し最終的なケアプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	「介護個人記録」「食事バイタル表」「状況チェック表」へ記録し、いつでも全職員が確認できるようにしており、就業前の確認を義務付けている。著しい状態の変化のある場合は、記録をもとに介護計画書の早期見直し、変更を行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人、家族の状況に応じて、通院等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努力している。本人の本音を聞きだせるよう夜間帯等、個別で話ができるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	必要に応じて運営推進会議メンバーの方々（地域包括・民生委員）に相談等し協力を得ている。今年もコロナウイルスの影響によりホーム長による地域への営業活動や行事の参加は自粛していたが今後は積極的に参加していきたい。東野小学校2年生の職場体験授業は来年以降も継続していきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時、「かかりつけ医」について説明、家族様に承諾（書面）を得て決定している。現在月に2度の往診により定期的な体調管理を行っている。「かかりつけ医」は内科、精神科、皮膚科があり利用者様の状態により往診を受けている。他科受診を要する場合は、本人・家族に同意をいただき受診している。		

自己評価	外部評価	項目(東原②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	月に2度訪問看護を利用し主治医と共に医療の連携を取っている。利用者様の状態についてはその都度報告し主治医の指示により訪問看護による点滴や傷の処置を実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	「介護添書」により情報提供し、週に1回は、入院先に連絡を入れ状態の把握に努め、速やかな退院支援を実施している。緊急の入院時速やかに介護添書を提出する為毎月添書の内容を更新している。ホームを退居となる場合はその後の行き先を含め事前に本人、ご家族、病院と面談し話し合っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化については契約時ホームでの生活における限界について、基本的に体制や条件が整わなければ看取りを行うのは難しい事を家族に説明し了承を得ているが、機を見て繰り返し説明を行いトラブルの無いよう支援している。また退居になる場合は次の行き先をご家族と相談しながら責任を持って一緒にお探ししている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	「急変時」「事故発生時」の対応については、マニュアルを作成している。勉強会にて「事故発生時」の対処については学習を組み入れている。急変時対応、応急処置等のファイルを作成し職員が閲覧できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回程度消防署の協力を得て「避難訓練」を実施。消防の方立会のもと消防訓練を9月に予定していたが、先方の都合により延期、11月に実施予定。会議の中で災害対策について防災年間計画を立て毎月計画に基づいて勉強会を実施している。協力体制は、運営推進会議等でお願している。災害時の避難場所がわかるよう台帳を作成し職員が周知できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(東原②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	年長者として敬意を払い、何事も本人の気持ちを大切に考えケアに従事している。入居者方々の情報についても守秘義務について理解し、管理には注意をしている。トイレ介助や居室での更衣介助、入浴の際は必ずドアを閉め、カーテンを必ず閉めてプライバシーに配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	業務優先ではなく、入居者本位のケアに取り組んでいる。入居者個々が、自分の思いや希望を表出できるようにそれぞれ担当者を配置、個別でコミュニケーションをとるよう努力している。行事ではどこに行きたいか、なにが食べたいか等、意見を募りなるべく希望にそえるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員の業務優先ではなく利用者様の希望や要望に寄り添えるケアを心掛けている。毎月の職員会議で各利用者様のカンファレンスを必ず行い利用者様らしい生活を送って頂けるようケアの統一を図っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自分でできる方は服装等自分で選択されているが、判断ができない方については職員が準備している。自分で朝の整容が出来る方にはして頂き出来ない方には職員がお手伝いしている。理美容については、訪問美容をお願いしている(希望できる)。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	自分でできる方にはお手伝い(テーブル拭き・食器洗い・食事作り)をお願いしている。食事は職員が作って提供している。野菜等は旬の物をなるべく多く使う様にしており季節を感じて頂ける様工夫している。ホームの庭で野菜栽培を行っており今年はさつまいもを収穫予定。		

自己評価	外部評価	項目(東原②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	「状況チェック表」に基づき入居者個々 の食事・水分摂取量について把握して いる。また、食事摂取の状態によってはキ ザミ食や水分にトロミを付ける等食事形 態を工夫している。摂取困難時は、その 方の好む食品等にて対応し摂取量の確保 に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後実施している。入居者個々の状態 に応じて介護用品（スパンクロス・口腔 内スポンジ）を使用にて清拭している。 できる方には声掛け・見守りで対応して いるが、それだけでは不十分なため職員 はできない部分をお手伝いしている。異 常時は管理者に報告、必要ならば歯科医 に往診依頼している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	排泄委員を設け、各入居者の排泄チェッ クを実施している。問題や見直しがある 場合は、グループ会にて（月1回）検討 会議を実施している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事量、水分量、排泄動作の低下等のア セスメントを行い月に2回の定期往診時 に主治医に報告、相談を行い便秘が酷い 場合は薬の処方など各個人に応じた対処 をしている。排泄ケア実施時、羞恥心・ プライバシーの保持には十分配慮して いる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	個々の要望に沿った入浴は現状困難であ るが週に2回は入浴していただしてい る。入浴ができない場合は部分清拭、ド ライシャンプー、足浴等にて対応して いる。希望された場合は、その日の状況に よりできる限りの対応を努力している。 ADLが低下した利用者様については職員 が2人介助で対応し事故の防止に努めて いる。		

自己評価	外部評価	項目(東原②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々が自分の好きな時間に休まれている。ただし昼夜逆転にならない様に適度な声掛けは行っている。入眠ができない方には、温かい飲み物や軽食または職員が話し相手となり対応している。生活リズムを普通に維持できるよう、日中はアクティビティを提供し心地よい身体疲労を目標としている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	朝昼夕担当者を決め管理し、誤薬等の事故がないよう「服薬マニュアル」作成、その内容に従い与薬介助し事故防止に努めている。服薬のセットの間違いによるヒヤリハット、事故が増加した為ルールを変更。定期薬、臨時薬については個別綴り表に処方箋を入れ、担当者を含め他職員が常時閲覧できるよう保管している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	入居者個々の「できること」、また「してみたいこと」を見出し、介護計画に組み入れている(個別ケア)。午後からのレクリエーションや手作業等の種類を増やしている。また、職員も一緒に楽しみながら笑顔のたえない環境作りに努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	行事については「行事委員」が担当し、計画・実施している。コロナウイルスの影響で外出の行事はほぼ実施出来なかったが今年は4月に竜王公園にお花見に行き利用者様の笑顔が多く見られた。散歩やドライブ等の頻度も多くなっている。秋から冬にかけて外出の頻度をあげていく予定。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	各入居者のIADL(日常生活動作)を把握したうえで可能な方にはホーム内でのリスク(紛失等)を家族様に伝え理解していただき管理させていただいている。外食時等、レジにて支払い等ができる方には行動していただきたいが、現状職員が対応している。		

自己評価	外部評価	項目(東原②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人希望時電話の使用可。個々の居室があるためプライバシーの確保はできている。利用者様の希望で携帯電話を持っている方が居られる。手紙等の代読はお手伝いさせていただいている。自立の方は本人が希望されれば近所のポストまで職員と一緒に行き投函して頂いている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自室の認識をして頂く為に表札を出している。入居者の動線を考慮し、必要な所には必要な道具・家具を設置している。状態の変化がある場合は職員会議で話し合い家具や移動等環境整備に努めている。季節感を感じられるように季節の草花、手作り作品を置くよう心がけている。トイレ等の共有場所の衛生保持には特に注意している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	娯楽室としてテレビ、ソファの設置、ゲーム等のレクリエーションのできる空間を設けている。1人になりたい方は、居室に入られる。ただし引き籠りにならない様適度な声掛けを行っている。利用者様同士のトラブルになりそうな時は職員がすぐに間に入りダイルームの離れたところに案内してしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時、自宅で使用されていた馴染みの家具・道具を持ち込んでいただくようお願いし、環境変化を最小限にするよう工夫している。また、家具・道具などの設置もなるべく自宅と変わらないように工夫している。ご家族の写真等の思い出の品も飾っている。ヒヤリハットを活用し居室の環境整備に努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	「できること」を見出し、それを活かす支援をしている。ヒヤリハットの活用により転倒リスクが高くなっている等事故防止の為に居室やパブリックスペースの環境整備を行っている。(ベット配置・手すり位置・補助具検討・動線整備・机の配置等)		

V アウトカム項目(東原②) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き生きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームひなたぼっこ・東原

作成日 令和5年11月18日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の出席者が地域包括センター職員と民生委員しかいない。	運営推進会議にご家族が出席出来ている。	ホーム長より運営推進会議の意義をご家族に改めて説明する。運営推進会議議事録をご家族に送付する。	令和5年1月～ 令和5年12月
2	4	運営推進会議の内容をご家族に周知出来ない。	運営推進会議の議事録を毎回ご家族に送付する。	ホーム長が議事録を作成し毎回ご家族に送付する。	令和5年1月～ 令和5年12月
3	5	事故が少なくなるとヒヤリハットの意識が低くなり、ヒヤリハット報告書の数が減ってしまう。	毎月のヒヤリハット報告書の提出数が各ユニット20件提出出来ている。	毎月の会議でホーム長よりヒヤリハットについて報告する。月の半ばにヒヤリハット数を職員に周知する。	令和5年1月～ 令和5年12月
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。